

【調査結果のポイント】 景況感は悪化しているとの見方が強く、先行きは不透明。

調査概要(データ対象期間:平成28年1月1日～平成28年1月31日) **経産省 伴走型小規模事業者支援推進事業**

- 調査期間:平成28年1月22日～平成28年1月29日
- 調査対象:市内中小企業748企業に対して郵送によるアンケート調査
- 回収状況:建設業37社、製造業44社、情報通信業3社、運輸業1社、卸・小売業34社、金融・保険業1社、不動産業3社、飲食・宿泊業12社、医療・福祉業1社、教育・学習支援業1社、複合サービス事業2社、サービス業24社、その他11社、無記入7社 <合計181社、回収率24.1%>
- 調査項目:各月の売上高・採算・仕入単価・従業員・業況・資金繰りと向こう3ヶ月の先行き見通し(DI値集計)

DIとはディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略。「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値を示す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答が多いことを示す。
DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

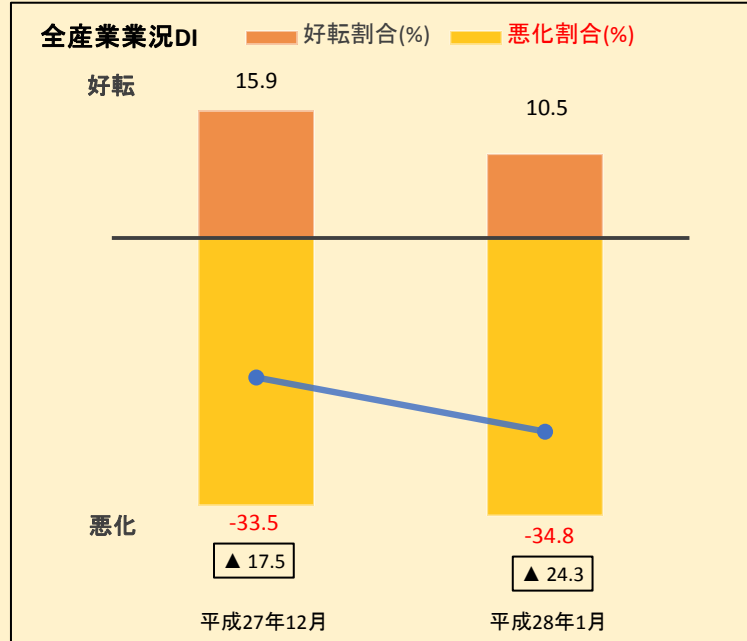
【全体的特徴】

1月の全産業業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前回調査(平成27年12月、以下同じ)と比較して、サービス業、飲食店・宿泊業が上昇したものの、他の業種で下降した結果、6.8ポイント下落し、▲24.3となった。また、向こう3ヶ月(平成28年2月～4月、以下同じ)の先行き見通しは、建設業、サービス業、飲食店・宿泊業で上昇の見通しとなっているが、製造業、卸・小売業で下降の見通しになっており、全産業合計DIは現状より2.2ポイント下降して▲26.5となっている。

売上高DIでは、前回調査と比較して、飲食店・宿泊業のみ上昇したが、他の産業で下降した結果、全産業合計DIは12.6ポイント下降して▲26.5となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、建設業、サービス業、飲食店・宿泊業では上昇する見通しであるが、製造業と卸・小売業が下降する見通しとなっており、全産業合計DIでも、現状より0.6ポイント下降して▲27.1となっている。

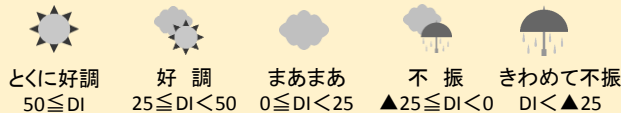
採算DIでは、前回調査と比較して、建築業、製造業、卸・小売業で下降した結果、16.0ポイント下落して、▲31.5となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、建設業が下降する見通しであるが、他の産業では上昇する見通しであり、全産業合計DIは、現状より6.6ポイント上昇して▲24.9となっている。

全体を総括すると、前回調査と比較して、業況が好転・不変と回答した企業が減り、悪化と回答した企業が増えたため、景況感は悪化しているとの見方が強い。



【全産業の景況天気図】

	前年同月比	先行き見通し(向こう3ヶ月)
業況	▲24.3 (▲17.5)	▲26.5 (▲25.5)
売上高	▲26.5 (▲13.9)	▲27.1 (▲25.9)
採算	▲31.5 (▲15.5)	▲24.9 (▲22.7)
資金繰り	▲16.0 (▲8.0)	▲18.2 (▲12.7)
仕入単価	▲20.4 (▲25.9)	▲16.0 (▲17.9)
従業員	6.1 (10.8)	8.8 (9.6)



【建設業】

	前年同月比	先行き見通し(向こう3ヶ月)
業況	▲13.5 (▲10.7)	▲13.5 (▲26.8)
売上高	▲18.9 (▲12.5)	▲16.2 (▲28.6)
採算	▲27.0 (▲10.7)	▲13.5 (▲25.0)
資金繰り	▲13.5 (▲1.8)	▲10.8 (▲3.6)
仕入単価	▲18.9 (▲21.4)	▲13.5 (▲14.3)
従業員	8.1 (5.4)	16.2 (5.4)

前回調査と比較して、業況DIは2.8ポイント下降して▲13.5に、売上高DIも6.4ポイント下降して▲18.9に、採算DIは16.3ポイント下降し、▲27.0となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DIは横ばい、売上高DI・採算DIは現状より上向き見方になっている。

【卸・小売業】

	前年同月比	先行き見通し(向こう3ヶ月)
業況	▲44.1 (▲21.3)	▲44.1 (▲29.8)
売上高	▲26.5 (▲6.4)	▲35.3 (▲12.8)
採算	▲38.2 (▲4.3)	▲35.3 (▲10.6)
資金繰り	▲23.5 (▲6.4)	▲26.5 (▲10.6)
仕入単価	▲26.5 (▲38.3)	▲32.4 (▲36.2)
従業員	8.8 (8.5)	8.8 (10.6)

前回調査と比較して、業況DIは22.8ポイント下降して▲44.1に、売上高DIは20.1ポイント下降して▲26.5に、採算DIは33.9ポイント下降して▲38.2となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DIは横ばい、売上高DIは現状より下向き、採算DIは上向き見方になっている。

【飲食店・宿泊業】

	前年同月比	先行き見通し(向こう3ヶ月)
業況	▲25.0 (▲30.0)	▲33.3 (▲40.0)
売上高	▲41.7 (▲60.0)	▲33.3 (▲40.0)
採算	▲50.0 (▲60.0)	▲33.3 (▲50.0)
資金繰り	▲16.7 (▲20.0)	▲25.0 (▲30.0)
仕入単価	▲83.3 (▲50.0)	▲75.0 (▲50.0)
従業員	8.3 (20.0)	16.7 (20.0)

前回調査と比較して、業況DIはマイナス幅が5.0ポイント縮小し、▲25.0となった。売上高DIも採算DIもマイナス幅が10.0ポイント以上縮小した。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DIは現状より下向きだが、売上高DI・採算DIは上向き見通しとなっている。

【製造業】

	前年同月比	先行き見通し(向こう3ヶ月)
業況	▲29.5 (▲12.2)	▲34.1 (▲14.6)
売上高	▲25.0 (▲9.8)	▲34.1 (▲24.4)
採算	▲31.8 (▲4.9)	▲27.3 (▲24.4)
資金繰り	▲9.1 (▲17.1)	▲20.5 (▲19.5)
仕入単価	▲11.4 (▲24.4)	▲9.1 (0.0)
従業員	▲2.3 (19.5)	▲2.3 (17.1)

前回調査と比較して、業況DIは17.3ポイント下降して▲29.5、売上高DIは15.2ポイント下降して▲25.0、採算DIも26.9ポイント下降して▲31.8と、いずれもマイナス幅が15ポイント以上となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上高DIは現状より下向き、採算DIは上向き見方になっている。

【サービス業】

	前年同月比	先行き見通し(向こう3ヶ月)
業況	▲8.3 (▲33.3)	▲8.3 (▲25.9)
売上高	▲41.7 (▲29.6)	▲16.7 (▲25.9)
採算	▲33.3 (▲40.7)	▲20.8 (▲22.2)
資金繰り	▲20.8 (▲18.5)	▲20.8 (▲22.2)
仕入単価	▲8.3 (▲37.0)	4.2 (▲18.5)
従業員	▲8.3 (11.1)	0.0 (7.4)

前回調査と比較して、業況DIはマイナス幅が25ポイント縮小して▲8.3に、採算DIもマイナス幅が7.4ポイント縮小して▲33.3となった。売上高DIは12.1ポイント下降して▲41.7となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DIは横ばい、売上高DI・採算DIは現状より上向きとの見方になっている。

【その他の産業】

・その他の企業(印刷業、自動車整備業等)
向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DIは今年比9.1ポイント上向き見方となったが、売上高DIは今年比マイナス18.2ポイント、採算DIはマイナス9.1ポイントと共に下向きとの見方になっている。

・情報通信業
向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上高DI・採算DIは全て横ばいとの見方になっている。

・不動産業
向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上高DI・採算DIは全て今年比マイナス33.3ポイント下向きとの見方になっている。